

波浮海脚の海底調査*

海上保安庁水路部

1. 概 説

海上保安庁水路部は、昭和61年11月に勃発した伊豆大島三原山の噴火による全島民の島外避難に対処するため、同年12月に測量船「拓洋」により伊豆大島周辺海域の海底調査を緊急に実施し、伊豆大島周辺の海底地形を明らかにしたが、その際複雑な地形が目された伊豆大島南東沖の波浮海脚について、昭和62年2月5日及び3月3日の2回、測量船「天洋」(高橋清吉船長)によって詳細な海底地形調査を実施した。(土出他, 1987)

2. 調査方法

測量船「天洋」(総トン数430トン)は、昭和61年11月に就役したばかりの最新の測量船であり、深さの2.5倍の測深幅で1,000mまでの水深を面的に測深する。浅海型のナローマルチビーム測深機であるハイドロチャートを搭載しており、海底地形調査はそれによった。測位は電波測位機(トリスポンダー)を使用し、主局を「天洋」に、従局を伊豆半島白浜にある白浜水路観測所と伊豆大島竜崎灯台に設置した。

3. 調査結果

ハイドロチャートデータによる波浮海脚の海底地形を第1図に示す。

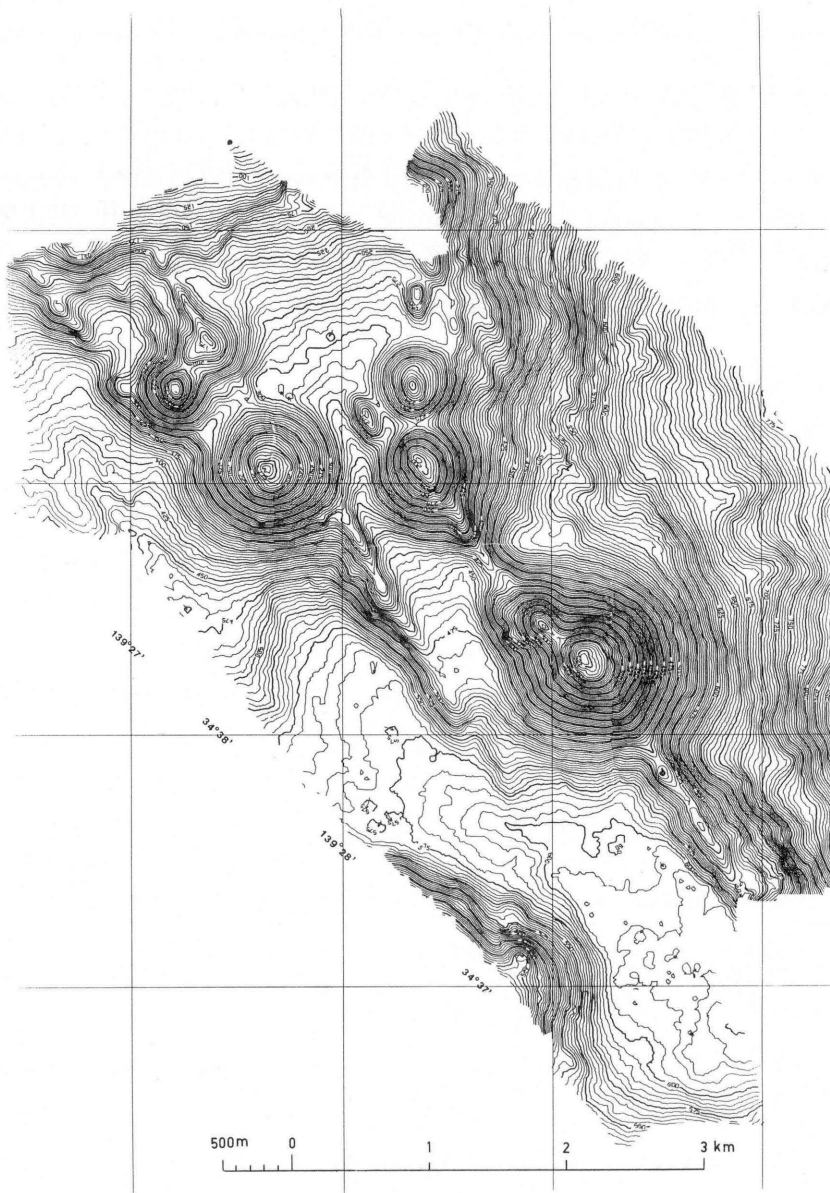
調査の結果

- (1) 波浮海脚は南東-北西方向に平行な間隔80mの側火山列からなっている。
- (2) 2列の側火山列は共に極めて直線的であり、かつ幅の狭い高まりが連続している。
- (3) 北東側の側火山列に、水深185mの火山らしき高まりも新たに確認した。
- (4) 昭和29年に水路部が実施した測量結果と比較すると、北東側の側火山列に水深の増加が著しい。
- (5) 北東側の側火山列の南端にある側火山は、側火山列の方向と直交する直線によって、南東部は不変、北西部は水深の大幅増とその変化が2分される。
等が判明した。

参 考 文 献

土出昌一, 村井弥亮, 浅田 昭, 服部敏男(1987): 波浮海脚の海底調査, 水路部研究報告 23, 伊豆大島特集号 187 - 204.

* Received Jan. 27, 1988



第 1 図 波浮海脚の海底地形

Fig.1 Bathymetric Chart of the Habu Spur and vicinity by the survey vessel "Ten-yo". Contour interval 5m.